

研究・調査報告書

報告書番号	担当
253	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Maternal Smoking, Alcohol Consumption, and Caffeine Consumption during Pregnancy in Relation to a Son's Risk of Persistent Cryptorchidism: A Prospective Study in the Child Health and Development Studies Cohort, 1957-1967</p> <p>母親の妊娠中の喫煙、飲酒、カフェイン摂取量と息子の停留精巣の関連についての検討 the Child Health and Development Studies Cohort, 1957-1967 前向き研究</p>	
執筆者	
Morgana L. Mongraw-Chaffin, Barbara A. Cohn, Richard D. Cohen, and Roberta E. Christianson	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Epidemiol 167,257-261,2008	
キーワード	
停留精巣、胎児性暴露、飲酒、喫煙、前向き研究	
要 旨	
<p>(目的)</p> <p>母親の妊娠中の喫煙、飲酒、カフェイン摂取量と息子の停留精巣の関連について the Child Health and Development Studies 前向きコホートにおいて検討する</p>	
<p>(方法)</p> <p>the Child Health and Development Studies は 1957-1967 年間のカリフォルニアの 20754 件の妊娠を対象とした 40 年以上の追跡調査である。妊娠初期に母親に問診調査を行った。7574 人の出生男児のうち 2 歳まで続く停留精巣を 84 人認めた。停留精巣の症例は出生年度と人種を照合した 3 倍のコントロールと比較した。</p>	
<p>(結果)</p> <p>コントロールの母親と比較して停留精巣の症例の母親は妊娠中にカフェインをより多く摂取していた (一日 3 倍以上摂取のオッズ比 1.4,95%信頼区間:1.1-1.9)。しかし、喫煙や飲酒を調整するとこのような傾向は減弱した。また、喫煙や飲酒といった他の母体や胎児期の危険因子は停留精巣と統計的に有意な関連を示さず、これらはカフェインと停留精巣の関連と交絡を認めなかった。</p>	
<p>(結論)</p> <p>妊娠中にカフェイン摂取は停留精巣のリスクが上昇していた。(一日 3 倍以上摂取のオッズ比 1.4,95%信頼区間:1.1-1.9)。しかし、喫煙や飲酒を調整するとこのような傾向は減弱した。</p>	